

# 令和7年度 神戸市立白川小学校 学校評価報告書

校園長名 長崎 康子

記入者名 藤本 哲也

神戸の教育が目指す人間像	教育ビジョン	神戸が目指す これからの学校の姿
心豊かに たくましく生きる人間	自他を大切に 自ら考え 未来をつくる	人がつながり ともに創る みんなの学校

学校の校づくり	子供も教職員も ともに 前進する 学校づくり
---------	------------------------

内容	重点的な取組み	評点 (4段階)	特記事項 (学校自己評価)	関係者評価 (学校自己評価に対する学校運営協議会の意見等)	学校自己評価、関係者評価を踏まえた 次年度の重点的な取組みの案
心豊かに 生き生きと学ぶ 白川っ子 ～ともに一歩前へ～					
育てたい子供の姿	思いやりのある子	3	本校の子ども達は困っている友達への声掛けが自然にできる優しい児童が多い。学び合いが定着し、友達と協力して学ぶ姿が増えてきた。挨拶に関しては改善の傾向だが、言葉遣いに関して継続的に指導が必要。	挨拶できる子が増えていて、地域でも明るい声がよく聞こえるようになってきたと感じる。一方で言葉遣いが荒い子もいて、家庭での影響も大きいのではと思う。授業では互いに助け合う姿が見られ、思いやりの心が育っていると感じる。	あいさつの定着を図るため、教室内外での声掛けや取り組みを継続していきたい。言葉遣いに課題のある子どもには粘り強く指導を行う。学び合い活動を拡充させ、協働と主体性のさらなる育成に努める。
	たくましく生きる子	3	問題発生時は自立および自己肯定感を育むため、傾聴の姿勢を大事にし、どうしたいのかを子ども自身が考えるよう対応の方法を職員で共通理解した。地域での迷惑行為に関して指導が必要。	子ども自身が考え、挑戦しようとする姿が増えてきたと感じる。自立心を育てようとする家庭や地域の姿勢もつながり、失敗も含めて経験を積む大切さが見えてきた。子ども達の考えや気持ちを大事にする関わりが広がっているのが良いことである。	自分で考え、行動できる力を育む対応の共通理解を教職員間でさらに深化させ、問題の背景を理解する対話的な関わりを継続する。地域での迷惑行為への指導を強化し、地域と協働した見守りをしていきたい。
	すすんで学ぶ子	3	自分で決める力をキーワードに職員研修に取り組んだ。どのような手法で、誰と学習を進めるのか決定し、友達と学び合う授業形態にすることで意欲が高まってきている。	自分で選び、自分で決めて進める学習が広まってきたと感じる。授業でも手を挙げて意思を示す子が増え、自分学習の探究心にも驚かされる。先生の工夫も伝わり、教室の雰囲気も前向きで楽しそうに見える。	自己決定力を高める授業を継続し、学習方法・相手・進め方を選択できる授業形態をさらに充実させる。そのためにも職員研修を大切にし、子どもの学びの意欲につながる授業改善に取り組む。
	地域とともに育つ子	3	地域教材が充実しており、それらを生かした実践を今後も継続していけるよう取り組めた。秋祭りでも子ども達の主体性ある活動が見られ、自立を目指すうえで大きな成果があった。地域行事への参加率が低いのが、今後の課題。	秋祭りや子供屋台など、地域での経験が子どもの自立につながっていると感じる。参加率の難しさはあるが、関わった行事での子ども達の成長がみられる。怪我をした時の対応などが明確になれば、子ども達の活動の場が広がると思う。	来年度も子ども達が地域とかかわる学習活動を継続し、体験的活動を通して地域への理解を深め、愛着を育む。また、地域行事への参加率向上に向けて、地域と連携していきたい。
必須テーマ	①子供が主役のこれからの学び (授業改善)	4	自己決定・見通し・他者参照の3ポイントを軸に授業改善を推進できた。教員自身も「やりたいこと別研修」で主体的な研修を実施することができた。	先生たちが楽しみながら学び続けている様子が伝わり、その姿勢が子どもたちにも良い影響を与えていると感じる。地域の行事でも子どもが主体的に動く姿が増え、関わる側としても成長を実感できるのが嬉しい。	自己決定・見通し・他者参照の3視点を基盤に、主体的・対話的で深い学びをさらに推進する。「やりたいこと別研修」を継続し、職員主体性を向上させるとともに、授業公開等を通して授業改善サイクルを定着させる。
	②地域とともにつくる 開かれた学校 (CSの充実)	3	学校運営協議会で学校の現状や課題を相談することができた。積極的に解決策やサポートの提案があり、とても心強かった。	白川の地域は本当に温かく、その思いに学校や子どもたちも応えていると感じる。行事も地域と学校が自然に交わり、子どもを真ん中にした雰囲気も心地よい。もっと参加しやすくする工夫を考えつつ、見守りを続けたい。	学校運営協議会と連携し、課題の共有と解決策の検討を継続する。地域の力を活用した活動を体系化し、児童・保護者・地域がより参画しやすい活動を考えていく。また、地域行事への参加を促せるよう、地域と連携し取り組む。
	③人材育成 or 業務改革	3	子どもと向き合う時間を確保したり、授業のための準備時間を生み出したりするため、校務の負担軽減に取り組んだ。子どもが多くの教員と関わり、安心して過ごせるよう5・6年生でチーム担任制を取り入れた。	先生方が子どものために全力で動いているのをいつも感じる。新しい案にもすぐ挑戦し、温かく寄り添ってくれる姿勢に安心する。同じ働く立場として大変さも分かり、感謝の気持ちを強く持っている。	引き続き業務改革を進め、校務の効率化を全校で取り組み、児童と向き合う時間と授業準備時間の確保に努め、教育活動の質を高める。チーム担任制の改善点を検証し、より安定した運用を図る
	④いじめ防止対策に関する取組み	3	日々の児童理解や情報共有、いじめアンケート等を活用し、早期発見、対応に努めた。学級会や学年集会など、特別な活動を重視し「自分たちで」という意識を育てることを大切にしたい。	トラブルを振り返る取り組みがとても良いと思う。劇や図で見える化することで相手の気持ちに迫れ、自分を客観視する力も育つと感じる。どんな対策をしても起る問題だが、対応の体制がしっかりしていると思った。	児童理解と情報共有を徹底し、早期発見・早期対応の体制強化を継続して行う。学級会や特別活動を中心に「自分たちで考え、行動する」子どもの育成に努める。指導の際、振り返りを大切に、相手の理解と客観的視点を気づかせる対応を心がける。
	⑤不登校支援の取組み	4	サポートルームを活用し登校状況が大きく改善した。しかし、支援は午前中なので、給食から以降どう対応するかが課題。スクールカウンセラーとの連携も大きな成果がでている。	不登校の子どもが減ってきているのは素晴らしい。サポートルームの活用などで、不登校の子どもへの居場所が確保されていると感じる。不登校の子どもへの対応はマンパワーが必要で、場合によっては地域でも受け入れが可能である。	次年度もサポートルームの有効的な活用を継続していく。サポートルーム担当、スクールカウンセラー、教職員との連携、情報共有も引き続き重視し、児童の居場所づくりを進め、安心して登校できる環境を整えていく。

【評点】 4：十分達成できた 3：おおむね達成できた 2：どちらかと言えば課題がある 1：課題がある